



# 全教北九州

新聞 全教北九州  
全教北九州市教職員組合  
2025年4月15日

全教北九州

検索

ようこそ労働組合へ 特集

この新聞はすべての教職員に配布しています

## 全教北九州と一緒に働きやすい職場を実現しよう



こういうこと  
ありませんか？



組合に加入すると  
こうなります！

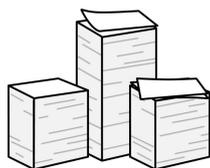


これは**パワハラ**  
じゃないの！



**相談し支えあう**  
ことができる

働き方、制度、ハラスメントなどで困ったことや「おかしいな」と思うことを相談し支えあうことができる。働く者の権利を学び、活用する方法がわかる。権利が使えるよう応援してもらえる。



**ムダな業務が**  
**多すぎ！**

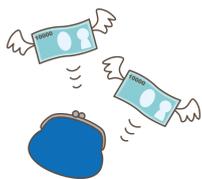


**交渉を通じて改善を**  
**求めることができる**

心が折れそうなとき、困ったときに話を聞いてもらえる。ハラスメント、不当な人事や職場環境などについて、教育委員会と交渉し改善を求めることができる。全教を通して国にも改善を求めることができる。  
(全教北九州は全教=全日本教職員組合に加盟しています)



**もう家に帰りたい…**

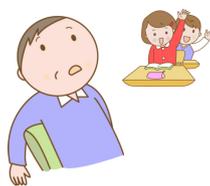


**給料よりも**  
**出費が多い…**



**全国の実践を学び**  
**交流ができる**

全国の子どもを大切にしている実践をしている教職員と出会い交流できる、校種をこえた多くの実践を学べる。また教育や社会の状況を広く学べ視野を広げることにもできる。みんなで楽しむイベントもあります。  
(参加費用の補助があります)



**子どもとの関係が**  
**うまく作れない…**



**保護者から無理な**  
**クレームがきた…**



おすすめ！

### 全教共済は教職員の「生活・いのちと健康・身分」をまもります

全日本教職員組合が運営する全教共済は、教職員の「生活・いのちと健康・身分」の三つをまもる助け合いの制度です。また全教自動車保険は教職員に特化した自動車保険です。全教共済と全教自動車保険は教職員の助け合いを通じて働きやすい職場づくりをめざしています。



# わたしたちの要求が前進しました！

全教北九州発足以来、多くの権利や賃金の前進がありました。これらの前進は、現場の教職員の声をもとに、粘り強く要求し続け、組合のとりくみを進めた結果です。この結果をもとに、さらに働きやすい職場とするために、組合と一緒に声をあげ、改善していきましょう。

## 35人学級が小学校の全学年で実現

▼「教育署名」で要望してきた少人数学級が2021年度に実現しました。(中学校は学校裁量で1学年のみ)

## 全世代で月例給引き上げ・一時金引上げ

▼2024年度の給与改定では、給料引上げ・一時金引上げを実現、若年層に手厚い改定となりました。ただし、物価上昇に追いつかず、実質賃金はマイナスです。

▼初任給の引上げは、2017年と2024年との比較で、20万7千500円が25万4千600円となり4万7100円の引き上げが実現しました。一方で55歳超の給与は、40万3千800円が41万1300円へと7千500円の引き上げにとどまりました。

## 先生になりたい人を応援

▼2023年度から、過去5年間、常勤講師・非常勤講師・養護助教諭・栄養代理職員を通算1年間以上務めると教員採用一次試験が免除になりました。

## 奨学金返済支援制度

▼「奨学金返済支援制度」が実現しました。

## 子育てを応援

▼年度初めからの産休代替を配置する「先読み加配」制度が実現しました。

▼育児休業が、一人の子につき原則1回から原則2回まで可能になりました。

## 教職員の時間外勤務等の制限が、3歳に満たない子から、小学校就学前の始期に達するまでの子に改正

▼「子育て部分休暇(無給)」の新設。1日2時間以内、30分単位での休暇がとれる。満6歳に達する日以後の最初の4月1日から満12歳に達する日以後の最初の3月31日の子を対象。障害のある子の場合にはさらに15歳に達する日以後の最初の3月31日まで。

## 高齢者部分休業制度

▼2023年度開始、55歳に達した翌年度から定年退職日までの教職員が対象です。

## 暫定再任用と同様の短時間勤務が可能

▼1週間当たりの勤務時間の半分が上限です。年度途中の勤務時間の変更は、各年度10月1日の時点で勤務時間が増える場合に限り可能です。

## 再任用教職員・会計年度任用職員の処遇改善

▼再任用教職員の住居手当が支給されるようになります。

▼会計年度任用職員の病気休暇が無給から有給になりました。

(ともに25年度から)

※その他、介護離職者の再採用、配偶者への扶養手当削減の先延ばし等も実現しました。詳細は組合ホームページをご覧ください。

# 子どもたちとステキな出会いをむかえよう

4/5 「せんせいの学校開校式」

4月5日(土)「せんせいの学校開校式」を開催し約50名が参加しました。

まず、学級活動で活用できるゲームの紹介と体験があり、笑顔や笑い声が自然と交わされ、和やかに会が始まりました。

次に、糸島で中学校の教諭をしている森恵美さんの講演「子どもたちとステキな出会いをむかえよう」がありました。森さんは、学級開きをどのようなに行つか、いろいろなゲームを交えながら話されました。ゲームを楽しむ、盛り上げるだけでなく、子どもをの何を見ることがよい

か、何のためにするのかなど、教師の思いや柱となる部分を感じられるお話でした。

感想では、「どんな意図をもって、どんな実践をしているのか聴けて良かった。今年度も頑張ります。」

「背景を読み取り、困っていることをみんなで解決していく、そんな雰囲気をつくるための声掛けや生徒の想いの共有が大切だと感じた。」「子どもたちに出会う前に大切なことを学べたと思います。」

4月からの子どもとの関わりにしつかりといかしていきそうです。「4月に入って、仕事もばたばたしていて、1週間間で疲れていたのが、来ようか悩みましたが、来てよかったです。」「などが寄せられました。」



## 北九州の戦争遺跡 小倉造兵廠の取水場(小倉北区)

小倉の水は紫川水系に依存しています。造兵廠も紫川の伏流水を利用していました。取水場は東篠崎にありました。取水された水は工場の給水塔から配水されていました。この付近に小倉市も1931年、取水場(現北九州市上下水道局葛牧取水場)を設置しています。しかし工業都市化の進展により夏は小倉市の給水なしには操業できない状況となりました。そこで陸軍は39年、小倉市山田に容量30万立方メートルの貯水池を整備する計画をたてました。この計画は実施されず、山田弾薬庫(陸軍小倉兵器補給廠山田分廠)となりました。なお小倉市は41年から新設の「今村水源池(今町)」により給水能力を8万5千人から15万5千人に増強しています。

造兵廠の取水場は戦後小倉市に無償貸与され「紫川水源池」となりました。99年に太陽光発電システムを設置し災害時には12万戸分の飲料水を供給します。